

CA1872 XXXXXXXXXX 国際図書館資料識別子 (ILII)

みやざわ あきら*
宮澤 彰*

1. はじめに

現在、国際標準化機構第46専門委員会 (ISO/TC46) の、識別と記述分科会 (SC9) で、ISO 20247 国際図書館資料識別子 (International Library Item Identifier: ILII) の標準化が進んでいる。現段階は 2016 年 7 月 16 日締め切りの CD (Committee Draft: 委員会原案) 投票⁽¹⁾ にかけてられているところである。

この標準は、成立すれば ISO/TC46 分野で日本から提案して国際標準となる最初のものである (E1565 参照)。2014 年 8 月に提案 (New Work Item Proporsal: NWIP) が 3 か月投票にかけられ、11 月に承認されたもので、2015 年の 9 月に作業原案の確定が終わっている。WG の主査とこの標準開発のプロジェクト・リーダーは筆者がつとめている。

実は、TC46 での日本からの提案としては、これは 2 件目である。最初のもは、2012 年に TC46/SC4 (技術的相互運用性) に提案した UHF 帯域の図書館用 RFID タグのユニーク識別子に関するものであった (E1300, E1451 参照) が、この提案は、結局英国からの提案とあわせて一つの技術仕様書 (Technical specification: TS) 28560-4⁽²⁾ として実現することになったため、日本発で国際標準となるのは、この ILII が初めてのものとなる予定である。

2. ISO 20247 の内容

以下の内容紹介は、CD に基づくもので、今後の審議過程で若干変更される可能性はあるが、大きく変わることはない。

端的に言えば、CD20247 は、国際的な個別資料の識別子として、

ISIL. ローカル資料識別子

という形式を使うことにしようという標準である。ISIL は ISO15511 で定められた図書館及び関連組織のための国際標準識別子 (CA1715, CA1757 参照)⁽³⁾ で、図書館や関連組織につけられた、国際的な識別子である。たとえば国立国会図書館は、“JP-1000001” という ISIL で表される。ISIL の後ろには記号 FULL STOP [.] をおく。ローカル資料識別子は、その図書館で個別資料につけた識別子である。この識別子が指

示するものは、その ISIL で識別される組織が、そのローカル資料識別子で指示している個別資料である。ISIL は、使用文字が英数字と 3 種類の記号 SOLIDUS [/], HYPHEN-MINUS [-], COLON [:] となっているので、ISIL の後に付す FULL STOP 文字が、ローカル資料識別子との区切りとなる。ローカル資料識別子は、英数字に限らず記号を含めて ISO 10646 国際符号化文字集合 (UCS)⁽⁴⁾ のすべての文字が使用可能で、長さにも制限はない。

CD20247 では、もう一つの形式の識別子も認めている。今のところほとんど使われていない標準の ISO27730 国際標準コレクション識別子 (ISCI)⁽⁵⁾ を使用する場合の形式である。この形式では ILII は、

ISCI. ローカル資料識別子

となる。ISCI は、“[ISIL] コレクション識別文字列” という形式である。この後に記号 FULL STOP [.] で区切って、そのコレクション内でのローカル資料識別子をつなぐ形式である。ISCI を使用し、コレクションごとに独立の資料識別体系を使用している図書館で、通常形式では重複がおこるような場合にこちらの形式で重複を回避できる。

この標準の適用範囲は、ISIL の適用範囲の組織がそのサービスのために識別して管理しているすべての資料となっている。ただし、例えば電子ジャーナルで、図書館がアクセス権のみ保持しているというものは除外される。この制限以外は、どのような資料にどのように識別子をつけるかの管理は、すべて所蔵組織の責任で自由に行える。たとえば、5 枚組の CD のような資料など、個別でも全体でもサービス対象になりうるような場合にどのように識別子を付与するかも、所蔵組織の裁量に任される。冊子資料だけでなく、デジタル資料も対象になり得る。また、1 つの所蔵組織に保持されている限りは、識別子を変えてはならないこと、資料が他の所蔵組織に移された場合は、移管先の組織が新たに識別子を与えることも規定されている。したがって、この識別子は、資料の物理的な同一性ではなく、図書館等が管理する単位としての同一性を保証するものである。

3. ILII の意義

ILII は、一見大した意義がないように思えるかもしれない。ISIL とローカルな資料識別子を組み合わせただけであり、2 つの識別子を組み合わせれば、同じ機能を果たすことができるのではないかと。確かに機能的には同等といえるが、ソフトウェアでの扱いは、格段に楽になる。また、組み合わせたときの表記方法を

* 国立情報学研究所名誉教授

標準化することだけでも、十分意義はある。たとえば、年月日を組み合わせれば日付を表現することができるが、16/06/02 や 02/06/16 などが使われて混乱が起るため、国際標準(ISO 8601「日付と時刻の表記」⁽⁶⁾)が必要になった。ILII も表記の統一という点で ISO 8601 と同様の意義を持つ。さらに、図書館の資料がひとつの図書館にしばられるのではなく、より広く利用されるものとして位置づけられるというサービスの方向性を顕在化させるという意義もある。この点については、この標準がどのように利用されるかを見た方が理解されるであろう。

4. ILII の利用

ILII が利用されるのは、資料がその所蔵組織の範囲を超えて利用される局面である。「範囲を超えた利用」というのは、物理的な資料の利用に限らない。たとえば、資料をデジタル化して提供する場合に、ポータルサイトの構築等も含めて、そのデジタル化した資料を他の機関や個人が再利用する場合もこれにあたる。デジタルアーカイブで、同一資料から、たとえば解像度の異なる、複数のリソースを作成することはしばしばある。これらのリソースの原資料の同一性を保証するのは、書誌的な事項からだけではできない。このような環境でデジタル化されたリソースに、原資料の ILII を対応させておくことは、再利用にとって有効である。

資料が物理的に所蔵館の範囲を超えて利用される例としては、RFID タグがあげられる。RFID タグを図書に添付して貸出や蔵書管理に利用するシステムは、すでにかなり普及している。図書館で使われる RFID タグには、周波数帯域が HF 帯域のものと、UHF 帯域のものがある。製造時に識別番号をもっている HF 帯域の RFID タグとは異なり、UHF 帯域の RFID タグでは、図書館側で識別子をつけなければならない。この識別子が他館の蔵書と重ならないようにすることは重要で、そのための識別子として ILII を使用する方法が強く勧められている。この方法は、図書館 RFID システムのタグ使用法を定めた ISO/TS 28560-4⁽⁷⁾とも互換性がある。また、図書館相互貸借における現物貸借を処理するシステムで、貸借物の ILII を使用することにより処理システムも個別館システムとのインタフェースも単純に設計できる。日本では、あまり例がないが複数の図書館が保存書庫を共有するシェアード・プリント (CA1819 参照) の管理システムでの資料識別のためにも使用できる。これらの利用は、いずれも単独の組織を超えて資料が利用される場合である。ILII はそのような環境、とくに図書館との共働、あるいは図書館と他の組織との共働といった局面で有効に働くものであり、ILII がこのような共

働を促進することが期待される。

5. 今後の予定

ISO の手続きでは、CD 投票が通ると、そのコメントを反映させて、DIS (照会原案) 投票 (5 か月投票) を行い、最終的な編集作業を行って、発行段階に至る。投票や議論の結果によっては、投票を再度実施したり、最終国際規格案を作成して投票したりすることになるが、ILII の標準案は単純なもののため議論されることは多くないと考えており、2017 年の後半には発行前段階 (標準の確定) に進めるものと予想している。

6. おわりに

この国際標準の開発は、TC46 国内委員会が、デジタルアーカイブの利活用促進のための国際標準開発の一環として進めているものである。デジタルアーカイブは、国の施策としてもその利活用促進がうたわれており⁽⁸⁾、この標準が成立した後も、日本からデジタルアーカイブに関して積極的に国際標準を提案していくことが望まれている。

- (1) ISO の手続き上での CD 投票の位置づけについては下記参照。
宮澤彰. 標準化の世界. 情報の科学と技術. 2015, 65(8), p. 328-334.
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009975750>, (参照 2016-05-17).
- (2) ISO/TS 28560-4:2014. Information and documentation -- RFID in libraries -- Part 4: Encoding of data elements based on rules from ISO/IEC 15962 in an RFID tag with partitioned memory.
<https://www.iso.org/obp/ui/#iso:std:iso:ts:28560-4:ed-1:1:en>, (accessed 2016-05-19).
- (3) “図書館及び関連組織のための国際標準識別子 (ISIL)”. 国立国会図書館.
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/isil/index.html>, (参照 2016-05-17).
- (4) ISO/IEC 10646:2014. Information technology -- Universal Coded Character Set (UCS).
<http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/index.html>, (accessed 2016-05-19).
- (5) ISO 27730:2012. Information and documentation -- International standard collection identifier (ISCI).
<https://www.iso.org/obp/ui/#iso:std:iso:27730:ed-1:1:en>, (accessed 2016-05-19).
- (6) ISO 8601:2004. Data elements and interchange formats -- Information interchange -- Representation of dates and times.
<https://www.iso.org/obp/ui/#iso:std:iso:8601:ed-3:1:en>, (accessed 2016-05-19).
- (7) ISO/TS 28560-4:2014. Information and documentation -- RFID in libraries -- Part 4: Encoding of data elements based on rules from ISO/IEC 15962 in an RFID tag with partitioned memory.
<https://www.iso.org/obp/ui/#iso:std:iso:ts:28560-4:ed-1:en>, (accessed 2016-05-19).
- (8) 知的財産戦略本部. 知的財産推進計画 2016. p. 46-51.
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikeikaku20160509.pdf>, (参照 2016-05-19).

[受理 : 2016-05-19]

Miyazawa Akira

International Library Item Identifier